

## 1. 麦類の栽培について

本年産は台風や暖冬の気象予報の影響で例年より播種作業は遅くなりましたが、播種以降に高温が続き、生育は進みました。二条大麦の莖立期は平年より1週間ほど早い3月初めでした。今後の気温は平年よりも高い見込みのため、出穂期は平年（4月中旬）よりも早まると予想されます。

今後は排水対策や赤かび病防除の基本技術を徹底し、高品質麦の生産に取り組みましょう。

### ① 排水対策

登熟期の湿害は根の活性を落とし、粒の充実不足を招きます。

- ・圃場の排水溝の溝さらいをしましょう。
- ・まだ設置していない圃場があれば、周囲に排水溝を掘ります。
- ・排水溝は低く掘り下げて、圃場外の排水路につなぎましょう。

### ② 赤かび病防除

赤かび病が発生すると麦として出荷できなくなるので、必ず薬剤散布を行いましょう。

#### ・二条大麦（ビール麦）

防除適期：穂揃い期7～10日後

ポイント：登熟期間中に雨が nhiều 場合は、1回目の7～10日後に2回目の散布をしましょう。

#### ・小麦

防除適期：1回目・開花始め（おおむね出穂7日後）、2回目・1回目の20日後

ポイント：登熟期間中に雨が nhiều 場合は、3回目の散布を行いましょう。

#### ・はだか麦（ビューファイバー）

防除適期：1回目・開花始め（おおむね出穂7日後）、2回目・1回目の10日後

ポイント：登熟期間中に雨が nhiều 場合は、3回目の散布を行いましょう。

【代表的な赤かび病防除薬剤】

令和2年3月13日現在

農薬名	二条大麦（ビール麦）		小麦	
	使用時期	使用回数	使用時期	使用回数
シルバキュアフロアブル	収穫14日前まで	2回以内	収穫7日前まで	2回以内
チルト乳剤25	収穫21日前まで	1回以内	収穫3日前まで	3回以内
トップジンM水和剤	収穫30日前まで	3回以内 （出穂期以降 1回以内）	収穫14日前まで	3回以内 （出穂期以降 2回以内）
トリフミン水和剤	収穫14日前まで	3回以内	収穫14日前まで	3回以内

※ 薬剤散布を行う場合は、ラベルの表示を確認し、散布してから収穫までの日数（使用時期）や使用回数に十分注意して正しく使用してください。

（裏面あり）



## 2. 水稻種子消毒について

未消毒の種子を購入した場合、ばか苗病や苗立枯病等の種子伝染性病害の防除のため、種子消毒を必ず行いましょう。

浸種水温は10℃～15℃を保ち、浸種日数は消毒種子（積算温度120～130℃）より2日ほど短く（積算温度100～120℃）します。消毒種子は最初の3日は水を交換せず、浸種期間中は2～3日ごとに新しい水に取り換えます。

### 【種子消毒薬剤の例】

農薬名	適用病害虫	希釈倍数	使用方法	使用回数
テクリードCフロアブル	もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、褐条病、ばか苗病、いもち病、ごま葉枯病、苗立枯病(リゾプス菌)、苗立枯病(トリコプス菌)	200倍	24時間種子浸漬	1回
スミチオン乳剤	イネシンガレセンチュウ	1000倍	6～72時間浸漬	1回

### 【薬剤を使用しない温湯消毒法】

乾燥した種籾を、60℃の温湯に10分間浸漬し、処理後直ちに流水で冷やす。発芽力低下を防ぐため、専用の温湯処理機を利用する。

## 3. 水稻育苗について

安足地域の育苗の大半は、播種後の育苗期間を25～30日間とした半中苗～中苗育苗の方法をとっています。元年産は、天候不順や水田の水不足の影響で、特に田植えが遅れたほ場では、苗質が軟弱徒長や老化による植え痛みで活着が悪く、初期生育が遅れました。

基本技術を徹底し、必要穂数の確保による安定栽培を行いましょう。

・薄播き、小苗植え（1株当たり4本）、坪当たり70株の栽植密度

### 【播種量】

ポイント：薄播き＋健康な苗づくりで、老化が遅く・活着が良く・茎数が多くなる！

	播種量(g/箱)	箱数(箱/10a)	育苗日数(日)	葉齢(枚)	草丈(cm)
稚苗	乾籾 130	20～23	20	2.2～2.5	12～13
	催芽籾 170				
半中苗	乾籾 100	24～30	25	3.1	13～15
	催芽籾 130				
中苗	乾籾 100	24～30	30	4.1	15～18
	催芽籾 130				

※ 箱数(最多)は、1株当たり植付本数が4本、栽植密度が坪当たり70株(m<sup>2</sup>あたり21株)、安全率120%で計算

※ 葉齢は、鞘葉と不完全葉を除く枚数

### 【育苗日数を延長するとき】

- ・風通しの良い涼しい場所に並べ、かん水を少なくして徒長を抑制する。
- ・苗の老化を避けるため、育苗期間が30日を超えるときは、窒素成分で1.0g程度追肥する。  
例：硫安 5.0g/箱を水 500ml に溶かして散布し、その後軽くかん水。

### 【老化苗を移植するとき】

- ・移植前日に箱当たり窒素成分 0.5～1.0g を追肥して移植する。